

3つのプロジェクト

この計画では、冒頭に「計画の目指す姿」を掲げました。

“高齢者がいきいきと輝き、長寿を楽しめる”くまもと
すべての高齢者が、
○暮らしたいと思う地域・場所で
○快適かつ安心・安全に
○生きがいを持ちながら
自立して長寿を全うすることのできる熊本を目指します。

また、計画を具体化する際に必要な「4つの理念」を定めました。

- 高齢者の尊厳の尊重
- 高齢者の自立支援と社会参加・参画の推進
- 利用者本位の視点の重視
- 地域ケアの実践

そのうえで、現在の介護現場で聞かれる様々な課題を「8つの課題」に集約し、計画期間内での実現可能性にも配慮しながら、それらの課題に対応する「8つの対応策」を設定しました。

この「8つの対応策」では、取り組む主要な施策を掲げるとともに、具体的な数値目標も設定しています。

- ① 高齢者の健康づくりと社会参加の支援
- ② 要支援・要介護状態の重度化予防
- ③ 孤立化した（引きこもり）高齢者の見守りネットワークの構築
- ④ 地域全体で認知症高齢者とその家族を支援する体制の整備
- ⑤ 必要なサービスが速やかに利用できる基盤の整備
- ⑥ 介護サービスの質の確保と向上
- ⑦ 療養病床の円滑な転換
- ⑧ 地域包括ケアの実現

この「8つの対応策」に取り組んで行く際、県や市町村の施策だけではなく、高齢者福祉や介護保険の制度を通じた“地域づくり”にまで昇華させていかなければなりません。

制度の隙間にある問題が増え、多様なニーズをすべて公的なサービスで対応することが困難な状況となっている中であって、高齢者本人やその家族、事業者に加え、地域の様々な社会資源を取り込みながら、計画の目指すべき姿で示した社会状況を高齢者の皆さんの生活レベルまで普及浸透させていく必要があると考えています。

このため、「8つの対応策」を着実に進める一方で、「8つの対応策」を大きく3つのプロジェクトに集約し、地域づくりとして、今後、具体化し、進展させながら、最終的にこの計画の目指す姿を実現していくこととします。

- 元気80歳推進 プロジェクト
- 認知症・あったか・よからいふ プロジェクト
- 切れ目のない介護と医療 プロジェクト

【プロジェクト】

- 元気80歳推進 プロジェクト
- 認知症・あったか・よからいふ プロジェクト
- 切れ目のない介護と医療プロジェクト

【主な目標】

- 80歳になっても社会参加活動等に取り組んでいるなど「健やか長寿」の人を増やす
- 要介護状態や認知症の症状、家族の状況に応じて適切なサービスが受けられるようにする
(在宅重度等の方が、出来るだけ早く施設や居住系のサービスが受けられるようにする)
- 認知症になってもできるだけ住み慣れた地域で安心して暮らせるようにする
(認知症対策・地域ケアの「熊本モデル」の創出)
- 一層、高齢者本人の尊厳が尊重された質の高いケアがなされるようにする
- 病院、施設、自宅のどこであっても介護や医療のサービスを切れ目なく利用できるようにする

